

オーバーヘッドドア

1. 評価対象

「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（以下「標仕」という。）令和4年版16章13節に規定するオーバーヘッドドアとする。

2. 品質・性能等

- (1) 品質・性能について、「評価内容（別紙）」の項目を確認している。
- (2) 主要な資材について、材質および資材メーカーから申請者の製造所への納入ルートを確認している。
- (3) 性能について、実施要領に規定する試験機関による試験結果等で確認している。

オーバーヘッドドア

評価内容（別紙）

項 目			品 質 ・ 性 能	備 考													
材 料	セクション	鋼板 の 場 合	材 質	JIS G 3312 または JIS G 3322													
			めっき 付着量	JIS G 3312 による Z06、F06 以上または JIS G 3322 による AZ90 以上													
		アルミニウム板 の 場 合		JIS H 4001													
		ファイバーグラス の 場 合		JIS A 5701													
		アルミニウム 型材	材 質	JIS H 4100													
	表 面 処 理		JIS H 8602 に規定する B 種または同等以上														
	ガイドレール	鋼板 の 場 合	材 質	JIS G 3302													
			めっき 付着量	JIS G 3302 による Z27 以上													
		ステンレス鋼板 の 場 合		JIS G 4305 による SUS304、SUS430J1L または SUS443J1													
	ワイヤロープ			JIS G 3525 または JIS G 3535													
部 材 の 厚 さ			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">部材</th> <th style="width: 50%;">材料</th> <th style="width: 30%;">厚さ (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">セクション</td> <td>鋼板</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>アルミニウム板</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>ファイバーグラス板</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>ガイドレール</td> <td>鋼板、ステンレス鋼板</td> <td>2.0</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">注：強度上必要な場合は、板厚を増す。</p>	部材	材料	厚さ (mm)	セクション	鋼板	0.5	アルミニウム板	0.6	ファイバーグラス板	1.0	ガイドレール	鋼板、ステンレス鋼板	2.0	
部材	材料	厚さ (mm)															
セクション	鋼板	0.5															
	アルミニウム板	0.6															
	ファイバーグラス板	1.0															
ガイドレール	鋼板、ステンレス鋼板	2.0															
品 質	外 観		使用上有害なねじれ、曲がり、さびなどの欠点がないこと。														
	構成部材の品質	セクション	セクションの強度は、強度試験を行い、残留たわみがセクション長さの 1/100 以下であること。														
		ワイヤロープ	ワイヤロープの引張強度は、ワイヤロープ 1 本にかかるドア重量の 1/2 に対して安全率を 5 以上とすること。また、ワイヤロープには変形、ほつれがないこと。														
		シャフト	1. シャフトは、円滑な回転を保持する伸直な形状であること。 2. シャフトは、ドア重量を支え、かつ、スプリングによるねじりモーメントに対し十分な強度を持っていること。														
		スプリング	スプリングは、ドアの重量および収納形式に対応した良好なバランスを与える適切なものであること。														

オーバーヘッドドア

項 目		品 質 ・ 性 能	備 考						
性 能	開 閉 機 能	開 閉 操 作 力	<p>バランス式、チェーン式の開閉機能は、開閉操作力試験を行い、次の表の規定に適合すること。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">開閉方式</th> <th style="text-align: center;">開閉操作力 (N)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">バランス式</td> <td style="text-align: center;">300 以下</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">チェーン式</td> <td style="text-align: center;">200 以下</td> </tr> </tbody> </table>	開閉方式	開閉操作力 (N)	バランス式	300 以下	チェーン式	200 以下
		開閉方式	開閉操作力 (N)						
		バランス式	300 以下						
チェーン式	200 以下								
電 動 式	<p>1. 電動式の開閉機能は、開閉試験を行い、次の規定に適合すること。</p> <p>(1) 開閉は円滑に作動すること。</p> <p>(2) 開閉時の平均速度は、毎分5～20mとすること。</p> <p>(3) 開閉中に任意の位置で停止すること。</p> <p>(4) 開閉の際、上限および下限において自動的に停止すること。</p> <p>(5) 開閉中、押しボタンスイッチを逆方向に操作しても、逆方向に作動しないこと。</p> <p>(6) 閉動作中、障害物感知装置が作動した場合、ドアは自動的に停止、または停止後開動作に転じて自動停止すること。</p> <p>(7) 障害物感知装置が作動したままの状態での停止した場合または作動不良の状態になったとき、再度閉信号を受けてもドアは開動作をしないこと。ただし、停止後自動的に開動作に転じる機構のものを除く。</p> <p>(8) 障害物感知装置が作動したままの状態での停止し、閉信号を受けた場合は、ドアは開動作をすること。</p> <p>(9) 電源遮断時においては、手動による開閉が可能であること。</p>								
障害物感知装置	<p>電動式オーバーヘッドドアは、降下中に障害物を感知した場合、自動的に停止する機能を有する障害物感知装置を設けること。</p>								
構 造	セ ク シ ョ ン	<p>セクションは、ヒンジによって屈曲可能に結合でき、セクションの上下には相じゃくり部をもつ機構であること。</p>							
	ス プ リ ン グ	<p>ねじりコイルばねを使用していること。</p>							
	ワ イ ヤ ド ラ ム	<p>ワイヤロープの径に応じた溝付ドラムとすること。</p>							
	ガ イ ド レ ー ル	<p>ガイドレールの断面はほぼ溝形で、その内側をローラの回転部が滑らかに移動し、かつ、容易に逸脱しない形状であること。</p>							
	電 装 品	制 御 盤	<p>押しボタンスイッチまたはリミットスイッチからの信号によってドアの開・閉・停の動作を制御できるものとし、開閉動作中に逆動の押しボタンが押されても、逆動作しない回路であること。</p>						
		押 し ボ タ ン ス イ ッ チ	<p>押しボタン操作によって制御盤に信号を送り、開・閉・停の動作を操作できること。</p>						
リ ミ ッ ト ス イ ッ チ		<p>ドアの開放または閉鎖の動作をその上限または下限の位置で、自動的に停止できるものとする。</p>							

オーバーヘッドドア

項 目		品 質 ・ 性 能	備 考																
加工・組立・取付	セ ク シ ョ ン	センターヒンジおよびローラーヒンジで連結しつつ組み込む。																	
	ガイドレール	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%; text-align: center;"> コンクリート系 下地・鉄骨下地 </div> <div style="width: 80%;"> 1. 開口高より上にレールを保持する場合アンカーまたは溶接により、間隔2m以下に取り付ける。 2. 開口高より下にレールを保持する場合、アンカーまたは溶接により、間隔600mm以下に取り付ける。また必要に応じて補強を行う。 </div> </div>																	
	木 下 地	1. 開口高より上にレールを保持する場合、コーチねじ等で、間隔2m以下に取り付ける。 2. 開口高より下にレールを保持する場合、コーチねじ等で、間隔600mm以下に取り付ける。また必要に応じて補強を行う。 3. コーチねじは、建具の製造所の指定するものとする。																	
寸 法	寸 法 許 容 差	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">部材の種類</th> <th style="text-align: center;">項 目</th> <th style="text-align: center;">寸法許容差 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">セクション</td> <td style="text-align: center;">長さ</td> <td style="text-align: center;">±5</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">高さ</td> <td style="text-align: center;">±2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">ガイドレール</td> <td style="text-align: center;">長さ</td> <td style="text-align: center;">±5</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">幅</td> <td style="text-align: center;">±1</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">シャフト</td> <td style="text-align: center;">長さ</td> <td style="text-align: center;">±5</td> </tr> </tbody> </table>	部材の種類	項 目	寸法許容差 (mm)	セクション	長さ	±5	高さ	±2	ガイドレール	長さ	±5	幅	±1	シャフト	長さ	±5	
部材の種類	項 目	寸法許容差 (mm)																	
セクション	長さ	±5																	
	高さ	±2																	
ガイドレール	長さ	±5																	
	幅	±1																	
シャフト	長さ	±5																	
試験方法	1. 数値の取扱いは、JIS A 4715の「9.1数値の取扱い」による。 2. セクションの強度試験は、JIS A 4715の「9.2セクションの強度試験」による。 3. 開閉試験は、JIS A 4715の「9.3ドアの開閉試験」による。																		